



STAND!!!!

あたりまえだったはずの日常や、
これまで信じてきた常識が、次々と崩れ去るなか、
モノをつくりだすメーカーとして、
ひとつひとつの本質を丹念に探っていくことが、
なによりも大切だと思っています。

今は、少しくらい「常識外れ」だったとしても、
可能性を感じる分野に、好奇心を持って飛び込んでいきたい。
私たちは、まっさらな気持ちで、多くの方々と交流し、
そこで見出したものをカタチにししながら、
丁寧にお届けしていきたいと思っています。

一気に物事が好転する「効率的」な取り組みなど、存在しません。
たとえ小さくても、身の丈にあつたところから着実に始める。
そして、将来を見据え、その取り組みを継続し、発展させていく。

一見すると「手間がかかる」と思われていること。
未来を開く鍵は、そんな場所に眠っているのかもしれない。

私たちは、志高く、挑み続けていきます。

STAND!!!!

紙への興味や理解を深める

OJI PAPER LIBRARY

2011年9月5日～2011年12月1日開催



ガミ!



これまで産業用紙は、「産業用紙」という呼び名の通り、特定の用途で使用されてきました。

また、製紙業界では、「板紙（イタガミ）」と揶揄され、印刷用紙やファンシーペーパーに比べて、

なぜか一段低いものと見なされてしまう、という風潮もありました。

しかし、業界外部の方々と交流を続けていくうちに、

私たちは、その認識が間違っていることに気がつきました。

なかでも、デザイナーの方々は、板紙にしかない独自の風合いに、大きな魅力を感じているようです。

実際、「どこで買えるのですか」、「見本帳はないのでしょうか」と、

ことあるごとに、リクエストをいただいているのです。

いままで、縁の下の力持ちであり、単なる脇役にすぎないと思われてきた板紙。

今回は、そんな“ガミ”たちにスポットライトを当て、従来とはまったく異なるやり方で、その可能性を探ってみました。

企画にご参加いただいたのは、3組のグラフィックデザイナー。

松田行正さん（マツダオフィス）、白田香太さん+飯島麻奈美さん（アトリエタイク）、

高田唯さん（ALL RIGHT GRAPHICS）。

加えて、王子パッケージング株式会社と図書印刷株式会社という、強力無比なサポーターにも、

多大なるご協力をいただき、三者三様のユニークなアプローチが実現しました。

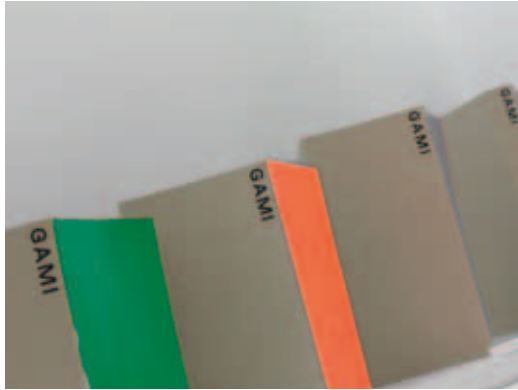
ガミの未来を切り拓く新たな展開を、じっくりとお楽しみください。



ガミ包装

使いたいのになかなか使えない板紙。印刷所に相談しても、断られることがほとんど（苦笑）。今回は、従来の用途から板紙を解放し、新しい生活用品を提案してみました。「ティッシュボックス」は、取り出し口を、好きな位置で破いて使う仕掛けになっています。普段は表側に使われている美しい色面を内側にもってきて、ティッシュにまつわる3種類のイラストを印刷しました。「包装段ボール」では、包装紙と段ボール箱の中間を目指しました。色合いは、桃やみかんの段ボール用の紙ということからイメージ。幾何学的なパターンに合わせて折り線を刻み、不器用な人でもなんとなく面白いかたちに包める、新しいタイプの梱包材です。強度の高さも板紙ならではの。板紙の質感を違う視点から眺めることで、生活空間に馴染むような新たな用途が開けてきます。アイデア次第で、板紙の活用法はどんどん広がります。

白田香太+飯島麻奈美（アトリエタイク）



ガミ本

表紙と本文用紙をすべて板紙で。そんなシンプルな試みを実践することで、「素材感」を打ち出すことができればと考えました。表紙全面に箔押しを施し、ケミカルな質感を与えることによって、板紙の風合いが、よりいっそう浮き彫りになるという仕掛けも盛り込んでいます。判型は、白銀比、黄金比、整数比、モノリス比など、独自の数値に基づいた4パターン。書店で流通しているものからは逸脱しています（笑）。特筆すべきは、掟破りの「厚さ」。こうした厚みを実現できるのも、板紙だからこそ。モノリス判を除くと、どれも直方体のかたちをしていて、一見すると、「本」というより、「物体」のようです。本のオブジェ性があらわになったとも言えますし、紙そのものの物質性が前面に出ているとも言える。展示期間中、「物質としての本」が、どんなふうに変化していくのか。それも楽しみです。

松田行正（マツダオフィス）



ガミシール

通常は薄手の紙に印刷されているシール。それを厚手の板紙に刷ったらどうなるんだろう。そんな発想から、今回のトライアルがスタートしました。風合いを活かしたかったので、印刷は裏面に。通常、そういうことはやらないそうですが（笑）、「印刷適性の低さ」ということを考え、あえて「彩度の高い色味」を配置しています。その分、発色が独特で、面白い効果が得られたのではないのでしょうか。シールに関しても、独自の存在感が漂っていると思います。大きなものはワッペンのようにだし、小さなものも、何個か重ね合わせると、さらに分厚くなって、雑貨や小物のような印象になる。紙なんだけれども、紙ではないような、不思議な物質感。楽しい素材です。シールはご自由にお持ち帰りください。いろいろな組み合わせが楽しめるはずですよ。

高田 唯（ALL RIGHT GRAPHICS）

OJI Standard PAPER



キャストコート紙、エンボス紙、アート紙を一室に集めた「OJI High Grade PAPER」に続く、第2弾。

塗工紙、微塗工紙、上質紙——。

これまでグレードごとにご提供してきた見本帳の作り方を根本的に見直し、王子製紙を代表する基幹銘柄だけを集め、1冊にまとめました。

その名も「OJI Standard PAPER」。

長年にわたって、多方面で活躍している紙ばかりです。グロスとマット。厚物と薄物。塗工紙と非塗工紙。それだけの違いしかないのに、紙の表現力は実に多彩。

“High Grade”に引き続き、

入念な品質確認ができる見本帳本来の機能を追求するとともに、究極の見開き性を誇る「PUR + オープンバック製本（※ 特許出願中）」を採用しました。色彩豊かな風景写真を選定し、裁ち落とし処理を施すなど、小さな仕掛けも随所に散りばめています。

紙って、やっぱり楽しい。

少しでも、そんな意識が広がっていくことを願ってやみません。



女子力!

世の中の半分を構成しているのは女性たち。
つまり、エンドユーザーの2分の1は、女性が占めているということになります。
そんな“あたりまえ”の事実に向け、
今回は女性のデザイナーや編集者のみなさんと交流。
ファンシーペーパーへの熱い思いを、縦横無尽に語っていただきました。
色合いや風合い、販売や広報戦略、そして、紙の未来について――。
これは、王子ファンシーペーパーの長い歴史において、
初の試みと言ってもよいでしょう。
同時に、厳しいご意見や、思いもよらないご指摘もいただきました。
社内のアプローチとは、ひと味違う視点に、
エンドユーザーの“リアルな声”を実感するとともに、
将来性のあるご提案にも、じゅうぶん手応えを感じました。
いま、市場では“女子力”というキーワードに注目が集まっています。
なにごとにも積極的で、ささいな部分にも心配りを忘れない女性たち。
その大胆かつ繊細な感覚を、しっかり受け止め、
彩り鮮やかな希望を描いていきたい。
ファンシーペーパーには、大きな可能性が潜んでいるのですから。

ふりあい

「たとえば、ある銘柄を廃盤にするとしても、白だけは残して、その風合いを守り続けてほしい。オリジナリティのある風合いは、王子ファンシーペーパーの“魂”だと思います。」
「柄と色のバランスも大事だと思うんです。たとえばポップな柄にはポップな色とか。」
「品のある紙を目にする、自分でも使いたくなる。風合いには、そんな力があります。」
「OKミニズウェーブ、やOKミニズマリッジ、雰囲気があって、ファンシーペーパーらしい紙だと思います。えっ、売れてない？知られてないだけでしょ!」

いろいろあい

「欲しいのは『どこにもない色』や『代わりがない色』。ワクワクするような色、意外と少ないんです。」
「OKミニズコットン」のような、
「こんなに色数があるんだ!」という銘柄も必要。だって、紙に対する憧れが広がるじゃない。」
「大切なのは、まんべんなくそろった色ではなく、トーン（色調）が整っているかどうか。」
「いま持っている「財産」を有効に活用しませんか? コンセプトをはっきりさせるだけで、色の見え方、紙の見え方が、大きく変わるはず。」

みらい

「紙はもっと自由でいい。いろんな人と交流して、できそうなことは、どんどん試してほしい。そうしないと、楽しい紙は出てこないと思います。」
「制約がある中でも、ワクワクする紙は、つくれると思う。だって、まだ世の中に存在してないけど、欲しい紙って、たくさんありますから。」
「紙のためなら、何でも協力します! 女性が喜びそうな紙、いっしょにつくっていきましょう!」
「経験年数が少ないデザイナーって、また紙を選んだことがないんです(笑)。近い将来、自分で選べるようになったときに、アイテム数が激減していたら、本当に悲しいです。」

はんぱい

「場当たり的な統廃合やリニアールが続くと、紙のコンセプトが見えづらくなるだけです。」
「見本帳って、紙メーカーにとっては名刺代わりじゃないですか。無理やり、押しつけるくらいの勢いで、どんどん配った方がいいですよ。」
「デザイナーって意外と、紙のこと、知らないですよ。」
「ファンシーペーパーの魅力って、やっぱり色と風合いじゃないですか。安さだけをPRされると情けないというが、残念な気持ちになります。」



製紙業の母体、 林業

2011年は国連が定めた国際森林年です。

目的は、「世界中の森林の持続可能な経営・保全の重要性に対する認識を高めること」。

我が国においても、林野庁が中心となり、多くの活動が予定されています。

森林・林業の再生。

「美しい森林づくり推進国民運動」の展開。

途上国の森林保全に対する理解の促進……等々。

紙を製造するための大本は何でしょうか。

そう、広大な森林資源です。

王子製紙グループも日本国内に19万ヘクタール、
海外に24万ヘクタールもの社有林を保有しています。

その広さは、日本の民間企業では最大。

製材用原木の育成や、製紙用原料の確保を大きな柱にしつつ、

近年は、国土や生活環境の保全、水源の涵養など、
さまざまな期待が寄せられています。

なぜ、わたしたちは、自ら森林を所有・管理しているのか。

それが、事業とどう結びつき、社会とどう関係しているのか。

製紙業の母体、林業。

紙づくりの源流にさかのぼり、もう一度、林業を「産業」として見つめ直すことが、
森林資源に関わるメーカーの努めだと考えています。



シロクくん meets キクちゃん vol.7

「やろうよ、育林！ やらなきゃ、育林！」



キクちゃん 国際森林年企画も第3弾に突入。今回は、
林業の真髓に迫るわよ！

シロクくん いいねえ、真髓。楽しみ〜。

キクちゃん 林業ってあたりまえだけど、相手は自然で
しょ。これが相手強いのよ。

シロクくん 前回、製材工場の取材でも触れたけど（詳
細はロマンチック保存装置#19参照）、
木は柱や板などに使われていくわけだから、
必要な木を、しかも、大きく育てないとい
けない。

キクちゃん Yes!! 自然任せだけじゃなくて、人の手
で、森の「手入れ」をすることが必要なの。

シロクくん 手入れをするのと、しないのとでは、そん
なに違うの？

キクちゃん それ全然違うのよ。考えてもみて。日本
では、木の成長に必要な年数は60年と
も80年とも言われてるから、その積み重
ねの差は…。もう取り返しがつかないわ。

シロクくん でも一体、林業で行われる作業には、ど
んなものがあるのかなあ？ あっ、まず植
林だ。植えなきゃ始まらないもんね。

キクちゃん そこが既に間違ってる（笑）。いきなり木
を植えても育ちが悪いから、「地ごしらえ」
と言って、伐採が終わった土地をきれいに
整備しておくことが必要ね。落ちている枝
を取り除いたり、草を刈ったり…。最初
の大切な作業ね。

シロクくん 大変失礼しました。そして植林だ。これは、
みなさんよく知ってるよね。

キクちゃん その土地に応じて、いろんな植え方が試
行錯誤されているみたい。のっけから奥深
すぎ！

シロクくん この後、僕たちが知らない作業がたくさん
行われていくわけだ。

キクちゃん そういことね。詳しい作業内容について
は、ここでは触れられないけど、植林後の
木の成長に応じて、「下草刈り」や「つる
切り」、「除伐」と続きます。最近、みな
さんが耳にする「間伐」が始まるのは20
年日以降なんです。

シロクくん えっ〜、20年〜っ!!

キクちゃん ちょっと想像できないスパンよね。その間の
作業を「育林」と呼んでいるそうよ。今
回は、苫小牧山林で下草刈りの取材をし
たので、その様子を紹介しします。

シロクくん まさに木を植えてからが本番みたいなの
だね。地道な作業が続けられて、間伐など、
木材として利用できるケースがやっとな訪れる。
重みが違う…。

キクちゃん そう。で、最近では、その間伐以降の作
業には大型重機が使われることが多いの。
ハーベスタやフォワーダといった林業専用
の機械を、何台か組み合わせて使うのが
一般的になりつつあります。

シロクくん これで作業性は格段にアップするね。

キクちゃん でも、この重機を森林に入れるには、「道」
が必要だってこと、忘れてるでしょ？

シロクくん あっ。言われてみれば…。

キクちゃん 近年の林業の課題は、なんといっても、こ
の「道づくり」よ。というわけで、今回は、
道づくりの現場も取材してきました。

シロクくん こりゃ完全に土木現場だ!! でも、道が
大切なのはよくわかるよ。苦労して育てた
木が、収穫できなかったら、それまで関わっ
た人たちの労力が無駄になっちゃう。

キクちゃん 将来を見据えて使える道のルートを考え、
しかも崩れない場所を選ばなきゃいけない。
その道の出来いかんで、生産性の高い山
になっていく。

シロクくん 納得。道づくりもセットにして、「育林」と
したいね。

キクちゃん 手入れが行き届いている山っていうのは、
木の収穫量がアップするのはもちろん、きち
んと循環をするから、おのずと“いい山”
になるんだよね。

シロクくん 山が元気だから、木の収穫以外にも、水
源かん養とか自然の恩恵がたくさんあるっ
てことだよ。

キクちゃん その通り!! 育林の出来によって、“いい
山”にも“悪い山”にもなる。その土地の
状況を見極める確かな目と、数十年後の
山の姿をイメージする高いクリエイティブ力
が求められるわね。

シロクくん まさに林業の神髄だ!! 林業ってスパン
が長い分だけ、先人の作業が次世代の財
産になる特異な産業だよ。僕たちは先
人の財産もらってるわけだから、次世代に
いい形で渡さないとな。

キクちゃん みんなが育林のことを知って、林業の本質
を考えるきっかけになれば、とっても嬉しい
よね。

紙への興味や理解を深める

OJI PAPER LIBRARY

〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 (王子製紙本社1階) papertec@ojipaper.co.jp

www.ojigroup.net

この用紙は、「OFK K判Y目 10kg」を使用しています。